

様式2 令和6年度 清瀬市立清瀬第四小学校 学校評価			
学校教育目標	◆すなおな明るい元気な子 ◆よく考えやりぬく子 ◆なかよく力をあわせる子 ◆自然に親しむ子		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
			【目指す資質・能力】 「言語力を活用した思考力・判断力・表現力の育成」、「考えたことをわかりやすく伝える力」、「書くこと」に重点をおく。
目指す学校像(ビジョン)			【特色ある教育活動】
【目指す学校像】	「信頼」を柱とし、安心感・達成感を通して「生きる力」を育む学校		○ゲストティーチャーを活用した、各学年の発達段階に応じた自然体験・栽培・観察活動を充実させ、問題解決学習を進める。
【目指す児童像】	◆「仲間」「先生」「人間」「友達」が大好きな笑顔が光る児童 ◆自ら学び、学力を伸ばす児童 ◆「共生」「自立」の心を伸ばす児童		○漢字を使う力、語彙力を鍛え、思考・判断・表現力を伸ばす。また、算数の基礎・基本の定着による論理的思考力を錬磨する。
【目指す教師像】	◆研鑽を続け、切磋琢磨する教師集団 ◆組織的に問題解決する教職員 ◆信頼される教師		○トーゴとの交流を行い、国際理解・SDGsの学習を通して課題解決力を伸ばす。
			○中休みを活用したマッスルデーを継続的に行うことで、運動遊びを活性化させ、体力向上の推進を図る。
前年度までの学校経営上の成果と課題			

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策	
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
確かな学力の向上	読書習慣の定着、俳句や詩の暗唱、清四漢検への取組を通して、語彙力を高めていく。	3	2	学校図書館の整備を進めることや読書時間を確保することで読書への意欲喚起を行い、読書習慣のさらなる定着を図る。また、次年度も俳句や詩の暗唱、清四漢検等に継続して取り組み、言語力を向上させていく。	言語能力を育成することは、学習の基盤となる力とされている。また、読書習慣の定着のための各学級でのボランティアによる読み聞かせなど、多様な方法での取組に期待したい。	「知識を深め、言葉や文字、文章を使い、表現する力を伸ばす」ことを本校の特色として、読書活動を充実させていく。言葉の力を豊かにするために、俳句や詩の暗唱、清四漢検にも計画的に取り組むことで、言語力のさらなる向上を図る。
	授業や宿題でタブレット端末を使用し、PCを文房具のように日常的に活用する。	3	3	タブレットPCを常に手元に置き、いつでも使用できる環境になっている。学年の実態によって使用頻度は変わるが、今後も授業で活用する頻度を増やしていく。	いつでも、どこでもを基本に、さらなるICT活用の授業の充実を図っていただきたい。その意味で、教員同士の情報共有やアイデアの共有を大事にいただきたい。	低学年から積極的に学習のねらいに沿った活用に取り組めるとともに、タブレットPCを毎日自宅に持ち帰らせ、家庭学習でも活用できるようにする。また、使用時のルールを児童に徹底させるとともに、そのルールを保護者にも伝え、情報モラルの向上を図る。
豊かな心の育成	挨拶、返事、言葉遣い、整理整頓、物を大切にする、靴のかかと揃えの定着を図る。	4	3	生活習慣の定着は、指導を重ねるたびに向上しているものの、しばらくすると惰性に流される傾向がある。各学級において日常的に指導を継続するとともに、異学年交流や、あいさつ隊の取組を通して、豊かな心を醸成していく。	学校だけではなく、各家庭での取組が大事だが、学校では継続した指導を続けていただきたい。学校全体の雰囲気や環境も重要と考えるので、児童の意識の向上に対しての取組を期待したい。	「挨拶」、「返事」、「言葉遣い」、「整理整頓」、「物を大切にする」、「靴のかかとを揃えること」について、折あるごとに児童に学校全体で投げかけていく。特に挨拶についてはここにここの班での活動の一環として「挨拶運動」を定期的に行い、教員だけでなく児童が主体的になって啓発する。
	2か月に1回アンケートを実施し、軽微ないじめを認知し、解決する。	4	3	アンケート結果を受け、丁寧に聞き取り、即時対応を心掛けてきた。児童は些細なことでもアンケートに記入するようになっていく。軽微ないじめも見逃さないよう、次年度も継続して行っていく。	アンケート結果に対する即時対応はもちろんのことであるが、アンケートには出てこない児童の様子や変化にも十分な注意を払うことが求められていると思うので、慎重に対応をお願いしたい。	いじめについて、今後も奇数月にアンケート実施を継続することで、早期対応をしていく。また、家庭との連携を深め、アンケートには出てこない事案も含めて、児童の変化に気付くことができるように心掛けていく。
健やかな体の育成	外遊びの励行や体育授業での運動量確保、マッスルデーの活用により体力向上を図る。	2	4	体育授業での運動量確保を心掛けるとともに、外遊びを励行してきた。引き続き、持久走や縄跳びに取り組むことで、持久力や俊敏性を高める活動を推進する。	体力調査の結果において、不得手な種目があるようであれば、不足する能力が向上できるような取組が必要だと考える。また、取組指標と成果指標に差があるため、目標設定も検討してもいいかもしれない。	体力調査の結果を踏まえ、体力向上に繋がる運動に年間を通して取り組むとともに、授業改善に取り組み、児童の運動量を増やしていく。また、雨天時や夏季の熱中症が心配される時期に体育館を開放し、体を動かす機会をつくる。
	早寝早起き朝ご飯、給食は残さず食べることを継続して指導し、自ら調整する力を育む。	4	3	正しい生活リズムを意識して過ごしている児童が多い。しかし、学年が上がるほどリズムが乱れがちである。給食では、季節の食材や郷土料理等をその都度紹介し、食についての関心を高めていく。	家庭での習慣や協力が重要な項目であるため、保護者への周知を継続的に行ってほしい。	今後も注意深く児童理解を深めながら、個に応じた支援を丁寧に続けていく。また家庭での「食育」の意識向上、特に朝食は必ず食べてくることを奨励していく。また、「健康大作戦」をさらに活用し、生活リズムや朝食のメニューを各家庭で見直し、より良い生活ができるように啓発する。
特別支援教育の充実	毎月、校内委員会を開催し、児童の実態に合わせた指導を協議する場をつくる。	4	4	定期的に校内委員会を開催し、児童について関係職員で共通理解を図る。	取組指標と成果指標ともに高評価で成果が挙がっている。多様な対応が求められると思うが、取り組みを継続してほしい。	特別支援コーディネーターを中心に校内委員会を充実させ、支援を要する児童の個別の状況を把握するための情報共有の場として校内委員会を定期的に行う。児童ごとの特性を見極め、意図的なかわりを行うことで、個に応じた支援をさらに充実させていく。
	「指導のユニバーサルデザイン化チェックリスト」を活用して自己評価し、改善する。	3	3	「焦点化」「視覚化」「共有化」を明確にし、すべての児童にとって分かりやすい、学びやすい授業づくりに努めてきた。管理職による授業観察を充実させ、各教員の指導力のさらなる向上に努めていく。	ユニバーサルデザインは、保護者には意識をしにくいところかもしれない。引き続き管理職による授業観察を充実させ、先生方の指導力の向上を期待したい。	今後も引き続き、全教員が意識的にユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境の工夫や授業改善に取り組んでいく。
本校の特色	近隣の自然を積極的に活用した体験活動及び栽培活動等を行う。	2	3	ゲストティーチャーを積極的に活用し、自然体験活動や栽培・観察活動を行った。次年度も自然環境豊かな本校の特色を生かした活動を継続して行っていく。	地域人材の活用は、これからの学校教育の充実には不可欠なことと考える。人脈のネットワークづくりをより拡充することが望まれる。	本校の環境の利点を最大限活用し、各学年の発達段階に応じた自然体験や栽培、観察活動をさらに充実させていく。年間指導計画を見直し、児童の主体性を伸ばす活動にしていく。
	H&Sの連絡機能の活用や学校ホームページの更新による情報発信を行う。	3	3	H&Sの連絡機能を活用したり、学校HPの「ウィークリー清四っ子」を頻繁に更新したりすることで、情報発信を積極的に行ってきた。次年度も「ウィークリー清四っ子」の更新を週一回以上の頻度で行う。	HPIはとても見やすく、最新の情報が更新されていてとても良い。保護者の会の項目もあり、資源回収の情報など地域の方も活用できる。今後とも継続してほしい。	H&S、学校HPを今後も活用し、情報発信に努めていく。